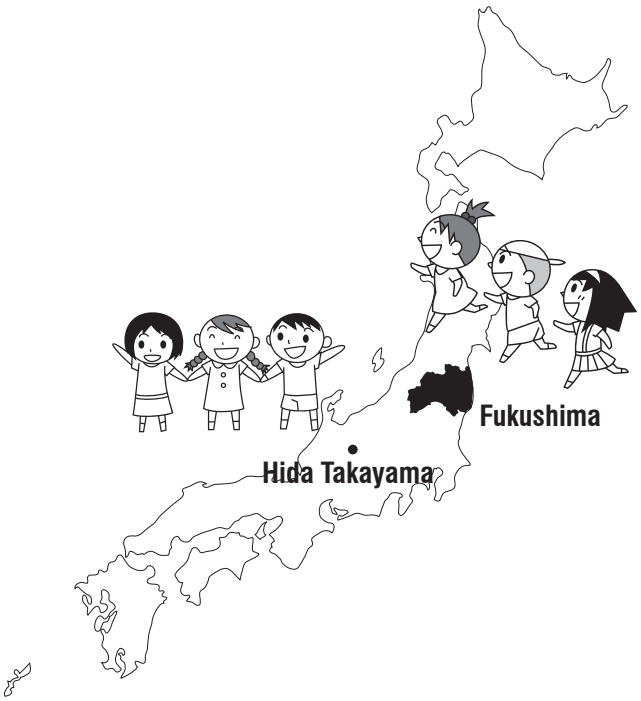
２０１３年春休み
ふくしまキッズ ｉｎ 飛騨高山
(２０１３年3月２５日～3月31日)

活動報告書



主催 ふくしまキッズ実行委員会

協力 高山市教育委員会
ＮＰＯ法人 教育支援協会東海
一般社団法人ふるさと体験飛騨高山

後援 岐阜県教育委員会
垂井町教育委員会

「ふくしまキッズ」春のプログラム全体概要

ごあいさつ

2011年の夏休みからスタートしました「ふくしまキッズ」の活動は、全国の皆さまのご支援のお蔭でその受け地もどんどん広がりを見せています。飛騨高山での活動は、昨年の春休みに引き続き、本年で2度目になりました。

高山市並びに高山市教育委員会を始め、地域の多くの皆さまの温かいご支援、ご助力を賜り、本年も30名の福島の子どもたちが自然と伝統文化豊かな飛騨高山を満喫し、元気を取り戻して全員無事に福島に帰って参りました。関係各位の皆さまに深く感謝申し上げます。大変お世話になり、誠にありがとうございました。

さて、今回は「ふくしまキッズ」では初めての試みである「ホームステイ」につきましても、国府エリアの15家族の皆さまにホストファミリーを受け入れていただきました。福島の子どもたちはホストファミリーの皆さまに本当に家族の一員として迎えていただき、温かい雰囲気の中、貴重な体験をさせていただき、一生に残る思い出をつくることができました。「大きくなったら、もう一度お世話になったホストファミリーの所に行ってみたい。」と言っている子どももいます。ホストファミリーの皆さま、この度は本当にお世話になり、心より感謝申し上げます。

東日本大震災、並びに福島第一原発事故から丸２年が経ちました。未だ一向に復興の兆しが見えない福島ですが、それでも福島の子どもたちには、地に足を付け、しっかりとたくましく成長してほしいと願います。多くの人たちとの触れ合いを通し、また「ふくしまキッズ」の経験も活かし、更に成長し、「心ある福島県」「未来ある日本」を築く一員に成長してくれることを祈念してやみません。

来年も是非飛騨高山で「ふくしまキッズ」を開催いたしたいと思っています。今後も皆さま方には何かとご支援を賜ることと存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。
最後に、この度の皆さま方のご厚情に対し、重ね重ね厚く御礼申し上げます。

ふくしまキッズ実行委員会
委員長　進士　徹
http://fukushima-kids/org/



■活動趣旨

① 本プログラムは、福島原発事故により放射能汚染の深刻な影響を受けている福島の子どもたちに、せめて学校の長期休暇に、何の心配もなく、思いきり「子どもらしい生活」を送ってもらうと同時に、子どもたちの「学びと育ち」を支援する教育事業を実施し、多様な体験や人とのコミュニケーションをつくり出すことを目的とします。

② 本プログラムに賛同する家庭の子どもたち（小・中学生）を対象に、参加費は活動の一部費用のみの負担とし（生活保護家庭は全額無償）、応募者多数の場合には抽選により参加者を決定します。

③ 本プログラム実施に関わる諸経費は、支援金の寄付を募ります。ふくしまキッズを継続的に実践することで、支援の輪を徐々に広めながら、日本に「子どもは社会で育てる」という考え方を定着させる持続的な活動へとつなげていきます。

④ 本事業実施に当たっては実行委員会を結成し、ふくしまキッズの活動趣旨に賛同し、協力関係を築いていただける受け地（受入協議会）と協働し運営します。

ふくしまキッズ実行委員会

委員長	進士　徹	(NPOあぶくまエヌエスネット理事長）全体総括・福島県内活動受入れ担当
副委員長	吉田　博彦	(NPO教育支援協会代表理事長）支援金募集・渉外担当・事務局担当
実行委員	宮本　英樹	(NPOねおす理事）北海道受入れ担当
実行委員	安江　こずゑ	(NPO教育支援協会北海道代表理事)
実行委員	青野　信久	(こどもの絆プロジェクト)
実行委員	草野　竹史	(環境NGOezorock　代表理事）北海道ボランティアコーディネート担当
実行委員	藤　原誉	(田歌舎代表）　京都受入れ担当
実行委員	中井　達也	(新温泉町職員）　兵庫受入れ担当
実行委員	山内　一平	(一般社団法人アイ・オー・イースタッフ）熊本受入れ担当
実行委員	神崎　健司	(小値賀町職員）　長崎受入れ担当
実行委員	西尾　真由美	(NPO教育支援協会追東海専務理事）　岐阜受入れ担当
実行委員	武宮　敬介	(NPO六日町観光協会ディレクター）　新潟受入れ担当
監査委員	金野　栄太郎	(公認会計士）会計管理・決算管理担当
監査委員	立川　直樹	(あずさ監査法人）会計管理・決算管理担当

ふくしまキッズ支援委員会

遠藤　和章	(北海道公民館協会事務局長)
玄侑　宗久	(作家・震災復興構想会議委員)
白石　康次郎	(海洋冒険家)
ジョン・ギャスライト	(ツリークライミングジャパン)
田口　ランディ	(作家)
寺脇　研	(京都造形芸術大学教授)
戸塚　隆	(ジャーナリスト)
吉田　研作	(上智大学教授)
湯川　れい子	(音楽評論、作詞家)
藤田　保	(立教大教授)
中島　岳志	(北海道大学大学院法学研究科准教授)　(50音順、敬称略)

ふくしまキッズ特別賛同人

秋山　豊寛	(ジャーナリスト・宇宙飛行士・京都造形芸術大学教授)
荒井　満	(作家・作詞作曲家)
鎌田　實	(医師・作家)
小林　武史	(音楽家・an bank代表理事)
坂本　龍一	(音楽家)
辻井　喬	(詩人・作家)
西田　敏行	(俳優)
日野原　重明	(聖路加国際病院理事長・日本音楽療法学会理事長)
細川　佳代子	(NPO法人勇気の翼インクルージョン2012理事長)
吉永　小百合	(俳優)　(50音順、敬称略)

「ふくしまキッズ」飛騨高山プログラムの実施概要

１.参加者

小学校１年生～小学校６年生
福島県の児童：３０名　・　高山市の児童

２.開催日

平成２５年3月２５日～3月３１日（6泊7日）

３.プログラム内容　　飛騨高山で心に残る感動体験を！

日本一広い市、高山市は古い伝統文化が残り、中心部の観光市街地から少し郊外に出ると、自然豊かな旧町村の農村地帯が広がっています。今回は丹生川、国府エリアを拠点に滞在し、地域の人たちとのふれあいや、自然体験、工作体験、食体験、散策、熟議等、さまざまな体験活動を行いました。子ども同士で話し合ったり、高山市の子どもたちや地域の人たちとの温かい交流を通して、心に残る有意義な時間を過ごすことができました。特に今回は初めて「ホームステイ」を行いました。国府エリアの15家族のホストファミリーの皆さまには本当に温かく迎えていただき、福島の子どもたちにも新たな家族ができ、一生の思い出となりました。福島と高山の次世代を担う子どもたちが、それぞれの視点や感性で飛騨高山のふるさとを体感し、意見を交わすことで心の交流が生まれ、双方の子どもたちにとってかけがえのない体験になったことと思います。

４.運営体制

● **総責任者**

本多　功（NPO法人教育支援協会東海 代表理事）

● **連絡先事務局機能**

鈴村仁孝（一般社団法人ふるさと体験飛騨高山 事務局長）

● **プログラム・安全管理責任者**

鈴村仁孝

● **協力機関**

岐阜県高山市・高山市教育委員会

● **後援**

岐阜県教育委員会・高山市教育委員会

不破郡垂井町教育委員会

5.日程及び活動内容

活動日	活動内容	備考
3月25日	福島－郡山－東京経由－名古屋（新幹線） 名古屋－高山市丹生川支所前広場（バス） 入村式　オリエンテーション　民宿に移動	[昼食] バス車内でとりますので、各家庭でご準備下さい。 ※内容はおにぎり弁当に統一願います。 民宿：朴葉荘（3泊4日）高山市丹生川町小野４５７－２ ０５７７－７９－２５２３
3月26日	[午前] マイ箸つくり・食体験 [午後] 鍾乳洞見学・平湯大滝散策	[昼食] 食体験（五平餅・笹寿司）
3月27日	[午前] ネイチャークラフト [午後] 乗馬体験（飛騨高山高校）	[昼食] 弁当 ネイチャークラフトはフォトフレームを作り、 思い出の写真を入れます。
3月28日	[午前] 高山市の子ども達と町並み散策 [午後] 高山市の子ども達と町並み散策 夕方ホームステイの家族と対面・移動	高山市の子ども達と各々昼食をとります。 [昼食] 高山ラーメン ホームステイ(3泊4日)
3月29日	[午前] 雪遊び＆遊湯館（温泉めぐり） [午後] 中島法晃氏による創作体験	[昼食] 弁当 創作体験で作った作品を持ち帰りますので ５０センチくらいの紙袋を用意してください。
3月30日	[午前] 郷土料理作り [午後] 熟議	[昼食] 郷土料理つくりはJAの方々に協力いただけます。熟議では、高山市の子ども達とテーマを決めて話し合いをします。
3月31日	退村式 高山市国府支所－不破郡垂井町経由－名古屋（バス） 名古屋－東京経由－郡山－福島（新幹線）	[昼食] 弁当 垂井町で休憩（花見）

6.子どもたちの主な活動・宿泊場所

活動場所：高山市丹生川町・国府町周辺の山林、農家、体験施設及び古い町並など
宿泊場所：①高山市丹生川町の体験民宿（朴葉荘）
②高山市国府町周辺のホストファミリー（15家族）

7.活動内容

体験民宿（朴葉荘）＆ホームステイでの宿泊体験 / マイ箸つくり＆食体験 / 鍾乳洞見学 / 平湯大滝散策 / ネイチャークラフト / 乗馬体験（飛騨高山高校） / 高山市街地散策（高山の子どもたちと） / 芸術家中島法晃氏によるパフォーマンスと創作体験 / 温泉体験（遊湯館） / 郷土料理つくり（まほろばの里） / 熟議（高山の子どもたちと）

２０１３年春「飛騨高山プログラム」活動記録

■入村式（3月25日）

福島からの長旅の疲れが少し見られるものの全員元気に高山に到着。丹生川支所前広場にて入村式を行いました。これからの1週間が大いに楽しみです。









■朴葉荘到着～オリエンテーション（3月25日）

今日から3日間お世話になる朴葉荘さんに到着。民宿の皆さんからとても温かいお出迎えを受けました。夕食前にオリエンテーションを行い、子どもたちもいよいよ活動の実感がわいてきました。夕食時、自分から進んで配膳のお手伝いをする子もいて感心。初日から「飛騨牛」が出て大興奮の子どもたちでした。








■マイ箸作り（3月26日）

今日は「マイ箸作り」に挑戦です。丁寧に作り方を教えてもらい、みんな興味津々、本当に熱中して自分の箸を制作しました。多少デコボコしていても自分で作った箸はこの世にひとつ。みんな満足そうでした。福島でも使ってくれるかな？








■食体験（笹寿司＆五平餅）　（3月26日）

マイ箸作りの後は、高山伝統の笹寿司と五平餅作りに挑戦。あとで食べられる活動には、みんなテンションが上がります。笹寿司も五平餅も結構上手にできました。自分でつくったものは最高！格別のおいしさでした。















■鍾乳洞見学～平湯大滝散策（3月26日）

午後は「飛騨大鍾乳洞」と「平湯大滝」に出かけました。鍾乳洞は初めての子もいて、大自然が悠久の時を経て生み出した幻想的な造形美に見とれていました。まだ雪の残る中、平湯大滝にも出かけました。高山の大自然に触れて心が清らかになった気がします。












■ネイチャークラフト（3月27日）

午前中はネイチャークラフトに挑戦。鈴村さんも材料を用意してくれていましたが、まずはみんなで材料集め。そして思い思いに好きな材料を使って写真フレームを飾っていきます。なかなか個性的な作品ができあがりました。福島に帰ったら、高山での思い出の写真を飾ってくれることでしょう。

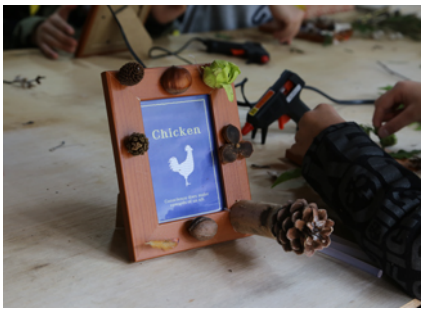














■乗馬体験（3月27日）

午後、飛騨高山高校へ乗馬に行きました。高校生のお兄さん、お姉さんが親切に乗り方を教えてくれ、みんな上手に乗れました。馬は何も話さないけれど、心が通っていたと思います。自然の中で思いっきり身体を動かして遊び、動物とも触れ合えて、本当にいい笑顔の子どもたちでした。この日はたくさんの取材も受けました。












■朴葉荘とお別れ～高山の町並み散策（3月28日）

大変お世話になった朴葉荘さんともお別れ。本当にお世話になりました。
今日は、地元高山の小学生が高山の町を案内してくれます。きっと福島の子どもたちに案内するのに、一生懸命準備してくれたことと思います。福島・高山双方の子どもたちにとって、とても有意義な時間を過ごすことができました。またこの日は高山市麺類業組合さん、飲食業組合さんのご協力もあり、６軒のお店で名物高山ラーメンを無料でごちそうになりました。福島の子どもたちも高山ラーメンの大ファンになったようです。















平成 24 年度

ふくしまキッズ　in　飛騨高山

飛騨高山中華そば食事券

以下の協力してくださるお店で使用ができます。

つづみそば・なかつぼ・桔梗屋

まさご・郷里・甚五郎

平成 25 年 3 月 28 日のみ使用可能

ふくしまキッズ実行委員会

■ホストファミリーとご対面（国府支所）　(3月28日)

今回「ふくしまキッズ」としては初めて「ホームステイ」を取り入れさせていただきました。国府小学校の児童のご家庭（15家族）がホストファミリーを引き受けてくださいました。事前（3月8日）に15家族に国府小学校にお集まりいただき、ホームステイ事前説明会を開催、色々ご準備をいただきました。他人のお子さんを預かるのはなかなか大変だったと思いますが、福島の子どもたちを家族の一員として温かく迎えていただき、本当にありがとうございました。







■芸術家中島法晃氏と創作体験（3月29日）

午前は雪遊びをして、「遊湯館」にて無料で温泉に入れていただきました。
午後は昨年に引き続き、芸術家の中島法晃氏が子どもたちと創作活動をしてくれました。中島氏のユニークな姿と迫力のある書に圧倒されていた子どもたちでしたが、「自由に描いていいんだ！」と分かると、持ち前の子どもらしさ満開で、時の経つのも忘れて創作活動に熱中。
今までにないスケールと大人数で作り上げた作品に大満足の子どもたちでした。














■郷土料理作り（3月30日）

今日は「まほろばの里」で思い切り遊びました。福島では放射能の影響から外で思い切り遊べていない子もいて、地面に寝転がったり、思い切り走りまわるだけでも、本来の子どもらしい笑顔が輝きます。子どもたちの笑顔は本当に素敵です。その後、「JAひだ」さんのご協力で、郷土料理体験をしました。地元のお母さんたちにやさしく教えてもらい、なかなかの出来栄えでした。


















■熟議（3月30日）

最後の夜は、昨年に引き続き、高山の子どもたちにも参加してもらい「熟議」を行いました。「高山で友だちになったみんなで、将来被災地や日本のために何ができるかな？」といったテーマで、グループに分かれて自由に「熟議」をし、それぞれのグループで発表しました。いつも子どもたちからは大人がはっとさせられるような意見が飛び出します。熟議には、正解などありませんし、大人がある方向へ誘導することもありません。主役はあくまでも子ども。そして自分でよく考え、他人の意見を理解し、グループで意見をまとめていく過程にこそ意義があります。
支援員の寺脇研さんからも「今日はみんな本当によく考えた！すばらしい！考えることが大切だよ。」と総評をいただきました。








■退村式（3月31日）

6泊7日のプログラムもあっという間に終わり、お別れの時を迎えました。退村式です。地元の女性合唱団アリートの皆さんが福島の子どもたちに素敵な歌を贈ってくださいました。
この1週間、本当にたくさんの方々から温かいお気持ちをいただき、交流があり、活動があり、福島の子どもたちにとってかけがえのない思い出ができました。関わっていただいた全ての人に感謝し、涙、涙のお別れとなりました。第二の家族となっていただいたホストファミリーの皆さんとも涙のお別れです。また福島に帰ってからも、こうした経験が糧となり、子どもたちがやさしく、そしてたくましく成長してくれればと願います。

















■垂井町での交流～帰路へ（3月31日）

昨年に引き続き、名古屋に戻る途中で不破郡垂井町に伺い、地元の中学生たちの歓迎を受けました。今年は名物の「桜と鯉のぼり」を堪能することができました。








皆さん本当にありがとうございました。

プログラム終了後　保護者様からの便り

■お世話になった皆様へ：お礼の挨拶が遅れてすみません。高山プログラムに参加してお世話になった吉成心の母です。すごく楽しく過ごしたようで、帰ってきて毎日の楽しかった事やスタッフさんのおもしろかった話などをしてくれました。私としても行かせて良かったなあと思っています。高山のみなさん、スタッフの皆さんの温かさに、これからも頑張ろうと思いました。「大変」を「大きく変わる」に変えて……。まだまだ福島の現状は変わらず、子どもたちの外での活動は3時間で、今年度のプールも決まっていません。でも、長期休みのときだけでも、また「ふくしまキッズ」に参加させたいと思います。今回参加させていただいた事により、私も子供も成長したと思っています。我が子には将来、人のために役に立つ仕事に就いて欲しいと願っています。今回、本当にありがとうございました。（吉成心・母）

■ふくしまキッズでお世話になりました、藤井日和の母です。たくさんの体験をさせていただき、笑顔で帰ってまいりました。去年のさるぼぼつくり、マイはし、笹ずし、五平餅、みんなこちらでお世話になったのではないでしょうか？　どれも、とても楽しく、おいしかったと話しています。我が家では、飛騨高山に行ったことがあるのは日和だけで、それも自慢です。地元の方が、郷土を大切にされているのが、こちらにいても伝わってきて、そこが魅力的です。いつか、家族みんなで行きたいと考えています。
福島では、外での体験はもちろん、自然素材を使った体験も、とても少なくなっています。外遊びが大好きな子供たちの願いを、これからもできるかぎりかなえてやりたいと思っています。貴重な体験をありがとうございました。
追伸）五平餅がとてもおいしく、作ってほしいと言われました。レシピを教えていただけたらうれしいです。企業秘密だったらすみません！（藤井日和・母）

■飛騨高山の皆様、まるねえさん、ボランティアスタッフの皆さん、一週間本当にお世話になりありがとうございました。最高の笑顔で帰ってきた子どもを見て、どんなに楽しい毎日だったのかよく分かりました。自由奔放な言動でいろいろとご迷惑をおかけしたことと思います。すみません…。それでも、しっかりと受け止めていただきありがとうございました。ホームステイや町並み散策で飛騨高山の小学生の皆さんとの交流が心に残っていて「○○ちゃんみたいに優しくなりたい。」と話す子どもに、色々感じとってきたのだと思いました。この度は本当にありがとうございました。（さーまま）

■７日間、大変お世話になりました。車の中でも家に帰ってきてからも娘の話は止まりません。高山での体験が本当に楽しかったんだなあとつくづく思います。初めてのホームステイ、そして数々の貴重な体験は、娘にとって忘れられない７日間だったことと思います。
飛騨高山の皆様、ふくしまキッズの関係者の皆様、ボランティアの皆様、本当にお世話になりました。心から感謝しています。（みくママ様）

プログラム終了後　保護者様からの便り

■高山市の皆さま、ホストファミリーの皆さま、まるねえさん＆スタッフの皆さん大変お世話になりました。本当に楽しかったんでしょうね。帰ってきた子どもたちの顔を見てわかりました。疲れて、帰りの車の中で眠ってしまいましたので、話の続きは明日以降に聞こうと思います。『いっぱいあるよ！！』と言っていたので楽しみです。（つー&ここｍａｍａ）

■飛騨高山の皆様、まるねえさんを始めスタッフ及び関係者の皆様方、７日間本当にお世話になりました。満面の笑顔で帰ってきた子供達を見て、胸にこみ上げるものがありました。行かせて良かった！と心から思いました。本当に充実した７日間だったようですね。
息子は帰りの車の中でも夕飯を食べている間もずっとしゃべりっぱなしでした。家に帰った途端、電池が切れたように眠ってしまいましたが(^^;これからゆっくりと土産話を聞かせてもらいます♪)
これからまた窮屈な暮らしをさせてしまいますが、飛騨高山での体験や思い出は子供達の心の支えとなると思います。皆様、本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした！！事後処理が大変だと思いますが、どうか体調を崩されませんようご自愛くださいませ。またお会い出来ることを楽しみにしております。（わへいハハ）

■飛騨高山の皆さん、スタッフの皆さん、そしてまるねえさん、７日間お世話になりました。昨年春から、２度目ですが、更にたくさんの体験とふれあいをさせていただいてきたようです。飛騨高山の皆さんが郷土を大切にする姿や、ボランティアで関わってくれたのを見て、子供たちの中にそれらが残ってくれることと思っています。それが、なによりのお土産です。皆さん、本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。（ひよママ）

■高山の皆様、ホストファミリーの皆様、そしてふくしまキッズに携わって下さいました全ての皆様、この度は息子が本当にお世話になり、親として心より深く感謝申し上げます。震災以後、放射能の影響や心配もあり、福島の子どもたちは本当に心身ともに疲弊してきていることと思います。屋外に出て遊べなかったり、地面や木々に触れられなかったりと、「子供らしい普通のこと」に大きな制限がかかっています。除染も地域差がありますが、何よりもどの情報を信じて良いのか分からない不安があります。子育てを優先し、転地（避難）という選択をする方もいますが、したくない、あるいはできない人たちもいます。
今回のような「ふくしまキッズ」は、福島の子どもたちにとっては、本当にありがたく、かけがえのないものです。子どもたちは高山の人たちや多くの関係者の皆さんから温かいお気持ちをいただき、また放射能の影響から隔離され思いっきり自然の中で遊ぶことができるのです。元気を取り戻せるのです。息子も本当に楽しい思い出をつくらせていただきました。たくさんの思い出話をする我が子の顔を見て目頭が熱くなりました。
復興にあとどれくらいの年月がかかるのか、はたして復興するのかも定かでない現実を生きる我々は、次世代を担う子どもたちには人として大きく成長していってほしいと願います。人の優しさを知り、お互いを理解することの大切さに気づき、自分たちで明るい未来を切り開いていくという気概を持ち、これから大きくなっていってくれたらと思います。
本当にこの度はお世話になり、心より感謝いたします。

プログラム終了後　保護者様からの便り

■お世話になった高山の方々、ホームステイ先の方々、まるねえさん、ふくしまキッズに関わってくださった全ての方に感謝です。ありがとうございました。これからもまだまだ福島の現状が続き『大変』ですが『大きく変わる』と信じて日々頑張っていこうと思います。最後に、まるねえさん、福島まで子供達に付き添っていただき、ありがとうございました&お疲れ様でした。

■高山市の皆さん、スタッフの皆さん、7日間何から何までお世話になり、ありがとうございました。帰ってきた娘は本当にイキイキと色々な事を話してくれました。本当に楽しかったようです。ホストファミリーのこと、ボランティアの大学生さんたちのこと、市内を案内してくれた高山の小学生のこと、創作、乗馬、温泉、郷土料理、高山ラーメンのことなど機関銃のように語ってくれました。大きくなったらもう一度高山に行きたいとも言っています。こんなにもイキイキと春休みを過ごすことができ、また新学期からがんばると言っています。いっぱいの元気をいただき本当にありがとうございました。
皆様のご健康とご活躍を心よりご祈念いたします。

■ホストファミリー○○様
娘が大変お世話になりました。高山での一週間、たくさん遊ぶことができたので充電できたと思います。原発事故さえなければ、子供たちは今も普段通りの生活を送り、不自由することがなかったのは事実です。震災は娘が年長になる直前の出来事でした。外遊びがピークの最中、震災前はどろんこ遊び・お散歩・水遊び・自転車乗りといった外遊びばかりでした。それらを全くさせてあげられなくなったのです。外出時はマスク着用、基本的に一切外に出さない生活が始まったのです。県外に避難していく友達や先生を止めることもできず、とても辛い思いをしました。
私も夫と母子避難を何度も話し合いましたが、私たちは今の福島は不自由だけれど家族が揃っていた方がいいと思い、福島で生活していこうと決意しました。震災から2年経った現在でも、転入・転出が多すぎて、何が最善なのかと悩みながら生活している人がたくさんいます。「なんでこんな福島にとどまるのか」と思う方もいるかもしれませんが、やはり生まれ育った土地（故郷）は居心地がいいと言いますか、おじいちゃん、おばあちゃん、親戚もみんな近くにいて、子供たちが生まれた時からずっとそして今でも支えてもらっています。
ですが、子供たちの健康被害だけはあってはならないと思います。先日ホールボディーカウンター（体内残留放射性物質の測定検査）を受けましたが、幸いにも不検出でした。安心しました。この先も子供たちは不便な生活を強いられることになると思いますが、春休みなど長い休みを利用して、子供たちがリフレッシュできればいいなと思います。
○○さんからいただいた写真、拝見しました。ホームステイ先での生活がよくわかり安心いたしました。たくさん遊んでくださって本当にありがとうございました。クッキー、とてもおいしかったです。
娘にとって○○さんご家族に出会えたことはとても貴重なことだったと思います。たくさんの方の支えと優しさがあって高山に行けたんだと理解できるようになるのはまだ先のことと思いますが、本当にありがとうございました。

新聞掲載記事

福島の児童ら春休み満喫　高山で１週間、農業など体験

岐阜新聞　2013年03月26日

東日本大震災と福島第１原発事故で被災した福島県の児童らに、高山市内で春休みを満喫してもらおうと、「ふくしまキッズｉｎ飛騨高山」が２５日、同市内で始まった。３１日まで６泊７日の日程で、子どもたちがさまざまな体験活動を楽しむ。

全国のＮＰＯ法人などでつくる「ふくしまキッズ実行委員会」が全国で展開。高山市ではグリーンツーリズムの推進団体「ふるさと体験飛騨高山」が協力して昨年に続き実施、小学生３０人が参加する。



体験活動への期待を膨らませ、入村式に臨む福島県の子どもたち＝高山市丹生川町小野、朴葉荘

同市丹生川町小野の旅館「朴葉荘」で行われた入村式では、同団体の中萩久夫代表理事が「おいしい空気と自然の中で思い切り遊んでください」などとあいさつした。子どもたちは市内散策や農業体験、乗馬などさまざまなプログラムに期待を膨らませていた。

福島県相馬市の男子児童（11）は「鍾乳洞へ行くのが楽しみ。いっぱい友だちをつくりたい」と笑顔で話していた。

東日本大震災：福島第１原発事故　福島の児童３０人、牛馬と触れあう――飛騨高山高　／岐阜

毎日新聞 3月28日(木)

福島原発事故による放射能汚染の心配がない場所で春休みを過ごしてもらう「ふくしまキッズ飛騨高山」に参加している福島県内の小学生３０人が２７日、高山市山田町の県立飛騨高山高校を訪れ、同校で飼育されている木曽馬に乗ったり、飛騨牛と触れあうなどして楽しんだ。

屋外で放射能の心配をせずに楽しんでもらおうと、全国７カ所で実施、高山ではＮＰＯ教育支援協会東海が運営して２５日から３１日までの日程で体験活動などをしている。

学校に到着した子どもたちは、同校の動物研究部員の案内で牛舎や豚舎を見学。８頭の木曽馬が飼育されている木曽馬舎では、木曽馬にまたがって大喜びしていた。乗馬を体験した福島県郡山市の桑野小３年、藤井日和さん（９）は「体が大きかったけどやさしい感じで怖くなかった」と笑顔で話していた。

【宮田正和】３月２８日朝刊

ふくしまキッズ２０１３春　飛騨高山プログラム
支援者・協賛企業一覧

高山市様
高山市教育員会様
高山市社会福祉協議会様
一般社団法人ふるさと体験飛騨高山様
朴葉荘様
県立飛騨高山高校様
高山市教員有志様
高山市国府小学校様
高山市国府小学校PTA様
高山市国府支所様
飛騨国府観光株式会社「遊湯館」様
高山市麺類業組合様
つづみそば様
なかつぼ様
桔梗屋様
まさご様
郷里様
甚五郎様
高山市飲食業組合様
ほうや煎餅堂様
JAひだ様
荒城郡まほろば文化村様
高山市国府交流センター様
女声合唱団アリート様
岐阜女子大学様
不破郡垂井町教育委員会様
不破郡垂井町立不破中学校生徒会様
不破郡垂井町立北中学校生徒会様
学生団体STUNITY様
社会福祉法人フィロス様

株式会社オーシャングローバルネットワーク様
株式会社モノリス様
株式会社日本旅行中部営業本部様
鯱バス株式会社様
株式会社カムロ様
株式会社大和総業様
シネマズギックス様

中島法晃様
上井靖様
千明様
伊藤哲也様
馬杉雅貴様
伊藤誠悟様
所源亮様

＜ホストファミリーの皆様＞
野村和博様
島田　博様
吉井拓郎様
川田良彦様
中田智晶様
牛丸和久様
石原啓悟様
森下由美子様
尾崎孝司様
中村　誠様
森　敏浩様
北村家光様
成瀬　徹様
井ノ下雅也様
中塚　勇様

※ホストファミリーの皆様には宿泊費を全額ご寄付頂きました。
次回高山プログラムに活用させて頂きます。

＜活動報告書作成＞
NPO教育支援協会東海

支援金のお願い

福島第一原発の被害から子どもたちを守り、支援するために結成されたのが、「ふくしまキッズ実行委員会」です。当実行委員会にNPOや行政機関、市民が参加し、学校の長期休暇を活用し「ふくしまキッズ」のプログラムを企画、運営しています。この活動にご賛同いただける皆さまに支援金をご寄附いただき、「ふくしまキッズ」にできる限り多くの福島の子どもたちが参加できるようご支援いただけましたら幸甚に存じます。
尚、寄付金は下記口座にお振込みいただけますようお願い申し上げます。

■振込先 /
三菱東京UFJ銀行・小田井（オタイ）支店（店番：238）・普通預金・４７５２０２２
特定非営利活動法人教育支援協会東海　代表理事　本多　功

ご寄附いただいた際には、下記e-mailまたはFAXにて、差支えない範囲で、お名前・ご連絡先・メッセージ等をお送りいただけましたら幸甚に存じます。
e-mail：info@kyoikushien-tokai.org　/ FAX：052-506-9078